

NPOワンポイントアドバイス!!

~団体について、効率的に相手に伝えるコツ~

新年度になり新たな事業計画のもと活動を始めたり、新しい仲間を募集する団体も多くなると思います。その時必要になるのが、団体の活動についてうまく伝えること。今回は、そのコツをお伝えいたします。

●説明のための準備をしておく

- 普段から団体の活動内容をよく整理しておきましょう。
団体紹介用のパンフレットとは別に事業紹介用パンフレットを用意し、以下の内容を盛り込むこと効果的です。
 - ・ ミッション、ビジョン、事業方針（事業の柱）
 - ・ 団体の良さ、強み、ユニークさ
 - ・ 具体的な活動場面（写真付で）、実績
 - ・ これから何を目指しているか
 - ・ 利用者、参加者、協力者の声
 - ・ お願いしたり協力してもらいたい具体的な内容
- この他に、過去に掲載された新聞記事などもコピーして用意しておきましょう。

●理解してもらうための話し方をする

抽象的な言葉はできるだけ使わず、写真等を使い具体的な事例やデータ等を交えて説明しましょう。ひとつの話題を長々と話さず、ポイントを絞り短くまとめて話しましょう。

●参加や協力を得るために理解と信頼をしてもらう

参加してもらいたい、協力してもらいたいなど行動を起こしてもらいたい時には、相手が理解しやすいよう具体的で現実的な提案をしましょう。また、団体の情報公開をするとともに、困っていることやマイナス情報も正直に伝えると、信頼を得ることにつながります。

参考:『NPOマネジメント 54号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

私の座右の銘とまちづくりセンターの活動めあてが「毎日、笑ってもらいたい。」としているせいか、「笑いとまちづくり」について講演してくださいという依頼が時々あります。

人々が争いを起こす理由の多くは互いを認められないからですが、では笑いはどんな時に起るのでしょうか。人が笑う理由は様々でしょうが、互いを受け入れ、違いに寛容でなければ楽しく笑うことはできないのではないかと思います。言いかえれば、笑いのある地域というのは「それぞれが違いを認め合っていて生きやすいまち」になるのではないでしょうか。

笑いには心も体も健康にする様々な効果があるそうです。実際、アメリカの研究では、笑いの多い人は笑わない人より7年も長生きするというデータがあります。笑いの多いまちは、「みんなが元気なまち」とも言えるかもしれません。

笑いは伝染します。笑顔を見ると、顔の筋肉のコントロールが失われてしまい思わず笑ってしまうのだそうです。笑いは広がっていくのです。笑いに関しての研究はたくさんされていますが、難しい理屈は別にして、単純に、周りの人が仏頂面でいるより笑顔でいるほうが気持ちが良いですよね。

笑いや笑顔にあふれていけるまちを、みんなでつくっていきたいと思います。